

特集

子どもと食

子どもの成長と発達に欠かせない「食」。

しかし、その「食」によって命を脅かす事態になることがあります。

それが「食物アレルギー」です。

就学時までの小さなお子様に多くみられ、その症状は様々。

今や現代病と言っている「食物アレルギー」について

最近の傾向と緊急時の対処法、そして社会環境までをご紹介します。





この先生に話を伺いました!

●田代香澄先生 プロフィール
諫早総合病院の小児科・アレルギー専門医。長崎大学病院でも担当医を務める。日本アレルギー学会専門医。小児アレルギー学会評議員。諫早市教育委員会アレルギー対応委員会委員。

食物アレルギーとは？

卵、乳製品、小麦の
3大食物アレルギー

人の体には、ウイルスや細菌など有害なものが入ってきた時に、これらを攻撃して体を守るように免疫が備わっています。しかし、人によっては、この免疫の仕組みが過剰に働き、ある特定の食物を異物と判断し、皮膚や呼吸器、消化器あるいは全身にさまざまな症状を引き起こしてしまうのが「食物アレルギー」です。このような症状が出やすい食物とはどんなものなのでしょうか？田代先生にお聞きしました。



「自分の子どもがアレルギー体質なのかどうか。さらに、どの食物が該当するのか？子どもを持つお母さんの心配は尽きません。」
「離乳食をはじめるのが生後半年ぐらい。それまでに、かゆみを伴う湿疹を繰り返している赤ちゃんは、皮膚科や小児科を受診し、スキンケア

早めの検査と治療、
原因の確認をしっかりと

「赤ちゃんから就学前までのお子さんに起こりやすい食物アレルギーは、1位が卵、2位が乳製品、3位が小麦です。この代表的な食物アレルギーは、自然に良くなり食べても症状が出なくなることが期待されます。一方で蕎麦、ピーナッツ、エビカニの甲殻類などは、実は小学生ぐらいから発症しやすく、意外と治りにくのが特徴です。」
大人まで持ち越すかもしれない食物アレルギーは、何が原因なのかをしっかりと知っておくことが大事です。



や塗り薬による治療を行います。それでも症状が良くない場合は、食物アレルギーと関係がある可能性があまりありません。血液検査と皮膚検査で調べることが

できますので、気になったら受診しましょう。さらに、ご家族の中で兄弟が食物アレルギーだったり、お父さんやお母さんがひどいアトピーだったとか、また喘息の経験をお持ちの方は、お子さんが離乳食をはじめの前に専門医へ相談されるのがベストかなと思います。」

